

令和4年8月2日

飯舘村で学生は今日も元気に活動しています
『いいたて村の村民食堂 2023』
『こちら5合目、応答せよ！ vol.2』 始動！

飯舘村を舞台に、昨年10月から始まった、村民と福島大学行政政策学類生が協働して企画・運営する2つのプロジェクト「いいたて村の村民食堂」「こちら5合目、応答せよ！」は、パワーアップして今年も開催されます。

「村民食堂」は飯舘村の日常食を気軽に味わうことができる食堂です。村民が作る漬物をメインに学生が作る味噌汁を加えた「一汁一菜膳」が提供されます。

「こちら5合目、応答せよ」は、①村民、②移住者、③福島大学生がそれぞれ、飯舘村の魅力や課題に取り組むワークショップ（WS）シリーズです。今年度は20のWSを通じて、飯舘村の復興を応援します。（2ページ目ワークショップ一覧参照）

2022年10月に始まった飯舘村を舞台にした2つのプロジェクト「いいたて村の村民食堂」と「こちら5合目、応答せよ！」は終了後に多くの方から「来年度もぜひ継続してほしい」、「自分もワークショップの提供者となってみたい」という声を受けて、今年も2つのプロジェクトを充実/継続します。

「いいたて村の村民食堂」は、村民が作る手作りの「漬物」をメインに、2種のおこわと学生の作る味噌汁がついた「一汁一菜膳」を提供する食堂です。毎回30名を超えるお客様が、村の日常食を気軽に味わいながら交流を深める貴重な「食堂」に成長しています。村の高齢者にとっては「懐かし」く、また若い大学生にとっては「新しい」味でもある「一汁一菜膳」を、今年も継続して月1回のペースで開店していきます。魅力ある漬物と村の豊かな日常食の世界を覗きに、会場である飯舘村の「までいな家」にお越しください！

「こちら5合目、応答せよ！」は、飯舘村を舞台に、①村民②移住者③福島大学生の3者がそれぞれの立場から、飯舘村の魅力を肌で感じ、また、村が抱える課題の解決を目指して各種ワークショップをシリーズで提供するものです。2023年度も魅力的な20のプログラムが用意されていますが、今年度は、「放射能災害の爪痕が残る中で、いかに飯舘の自然と生活文化の魅力を伝えていくか」という大きな課題に取り組むプログラムを充実させました。

飯舘村民と福島大学生との長年の協働があって実現した2つのプロジェクト。ぜひ、多くの方のご参加をお待ちしています！

なお本事業は、行政政策学類大黒ゼミと、「一般財団法人飯舘までい文化事業団」との共同企画です。

「こちら5合目、応答せよ！」ワークショップ一覧

- ①昔ながらの紫蘇ジュースを商品化—きみも今日から「食」の6次化プロデューサー
- ②真夏の宝さがし—「イータテベイク」を掘って！学んで！食べて！
- ③あんたの山Tつくりさこ！—自分だけの「福島の山T」をつくろう
- ④図図倉庫の巨大扉はあなたの芸術作品—草木の標本扉づくりワークショップ
- ⑤知ってる英語で十分！—オーストラリアのケーキを作ってみっぺ
- ⑥それは、歴史をたどる旅。—塩の道ウォークラリー第1弾
- ⑦あなたのまわりには豊かな野草がいっぱい！—身の回りの野草を集め、薫りたかいオリジナル野草茶を作ろう！
- ⑧「までいな村」の自分史—村民一人ひとりがつくってきた村の歴史を辿ろう①
- ⑨飯舘で活動する大学生、集まれ！—料理を作って参加する「持ち寄り」の長泥交流会
- ⑩までいなくらしを楽しむ—裂き織りコースターで味わうお茶の時間
- ⑪私たちの心の山をもう一度—空間線量を測定しながら虎捕山に登る
- ⑫真宗門徒の心のよりどころ—善仁寺で仏さまの教えを知る
- ⑬福島大学と飯舘村はながいおつきあい—伝統技術「ほぞ組み」をつかったフラワーボックスに飯舘の花を飾ろう
- ⑭伝統の技と食をピザに—飯舘村の食材で世界に1枚の「までい」なピザづくり
- ⑮震災前の夢を再び。—もち米「あぶくまもち」を使って新たな名産品「いいたておやき」の試作会
- ⑯飯舘の自然とキャンドルのコラボ—オリジナルキャンドルボックスでクリスマスを迎えたい！
- ⑰親子で参加するワークショップ—シマエナガちゃんをお家に招こう！
- ⑱飯舘の寒さを活かした保存食—あなたにつなぐ凍み餅の作り方、食べ方
- ⑲伊立村と台湾をつなぐ絆—台湾キッチンTAROTAROのパイナップルケーキ
- ⑳新たに一般募集する「チャレンジプログラム！」

(お問い合わせ先)
行政政策学類准教授 大黒 太郎
電話：024-548-8026
メール：a027@ipc.fukushima-u.ac.jp

村民と 福喜大学 行 協賛 大黒ゼミ生と一緒に開く

開店

いたて村の

村民食堂

2023



通常版は毎月第4金曜日開催!

■ 開店日(通常版)

※2月は第3金曜日開催です。

6月23日(金)・7月28日(金)

8月25日(金)・9月22日(金)

10月27日(金)・11月24日(金)

12月22日(金)・1月26日(金)

2月16日(金)・3月22日(金)

■ 時間 11時〜15時(ラストオーダー14時)

メニューは一つ!

飯舘村の日常食

一汁一菜膳 500円

漬物・みそ汁・おこわ二種 ※限定30食



スピノフ企画も開催予定! 日程はホームページや Instagram をご確認ください。

場所までいな家

〒960-1892 \ 役場隣り / 飯舘村伊丹沢字伊丹沢 578 番地 1

※会場は変更となる場合がございます。ホームページで随時お知らせいたします。



いいたて村の 村民食堂

「いいたて村の村民食堂」は、村民と福島大学行政政策学類大黒ゼミ生が一緒になって、飯館の「食」の伝統を守りながら、新しいことにチャレンジする食堂を目指します！

おこわとみそ汁の香り。漬物をかじったときの音。食べるとほっとする飯館の日常食を、「一汁一菜膳」（漬物、みそ汁、おこわ飯二種）として気軽に楽しめる食堂が村民食堂です。梅干しや味噌漬けなど、季節によって変わる「二菜」が食事の真ん中にある食の伝統を、村のばーちゃんたちと学生が一緒になって、これからも、大切に守っていきます。

そして、私たちはさらなるチャレンジも。村民食堂は、一汁一菜膳のほかにも、スピンオフとしてさまざまな食の提供を企画しています。たとえば、飯館にやってくる海外の友人たちが故郷で食べてきた普段食。学生たちの出身地、全国各地のご当地食。飯館に移住してきた方や、飯館を応援したい人たちの自慢のメニューなど。飯館村への移住を考える方々が、お試しで開く一日限定食堂も予定しています。詳しくはホームページまたはInstagramをご覧ください。

村の方も、村にやってくる方々にも、気軽に飯館の「食」を楽しんでいただける村民食堂を目指します。

通常開催

村のおばあちゃんと大学生が一緒になって作ります。

村で昔からつくられてきた漬物を中心におこわとお味噌汁がつく

「一汁一菜膳」をお出しします。

スピンオフ開催

通常開催の他に様々な「食」の提供にチャレンジするスピンオフ企画。

飯館村にゆかりのある様々な方とコラボした「食」をご提供します。

村民の方や「飯館に移住したい！」「応援したい！」「お店をやってみたい！」という方など…

こちらは不定期開催です。

開催情報はホームページまたはInstagramをご覧ください。

募集

食堂を使って

お試しでお店を開いて

みたい方、「食」で飯館村を

応援したい方募集！

詳細はお問い合わせください。

ホームページ



Instagram



「までいな暮らし普及センター」

場所 **までいな家**

〒960-1892 \役場隣り/
飯館村伊丹沢字伊丹沢 578 番地 1

※会場は変更となる場合がございます。ホームページで随時お知らせいたします。

主催 一般財団法人飯館までい文化事業団 協力 福島大学行政政策学類大黒ゼミ

お問い合わせ 一般財団法人 飯館までい文化事業団 事務局 tarotaro@furusato-bunka.jp

このチラシは福島県「令和5年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業」の補助金の交付を受けて作成しています

一緒に作って、
一緒に食べよう！



飯館村体験博覧会

vol.2

こちらら
ら合目、
庭合せり
まごいなまヨウ
の
登りかた

KOCHIRA
GO-GOME,
OUTOUSEYO!



特設 Web サイト公開! ~村を楽しむ 20 のプログラム~

2023 **8.1 tue** → 2024 **3.22 fri**

2023年7月24日(月)13:00より受付開始(事前申込み制)

主催 一般財団法人飯館までい文化事業団
共同企画 福島大学行政政策学類 大黒ゼミ

